

## 東日本大震災災害派遣活動に参加して



### 第38普通科連隊 即応予備3等陸曹 畠山 暑志

#### 活動内容：生活支援、瓦礫撤去

震災が起きて、即応予備自衛官に災害派遣命令がかかった時は、「やってやろう」という気持ちと不安な気持ちを抱きました。

秋田駐屯地に集合してから八戸駐屯地に向かいその後、岩手県陸前高田市に向かいました。宿営地に向かう途中、津波で被害を受けた場所を通り、車両の後方から、瓦礫の山、津波で流された建物、家、店、車を見た時は本当に言葉を失いました。ここは本当に日本なのか、現実なのか、勝手に涙が溢れてきました。宿営地近くの工場には、避難している人達がたくさんいらっしゃいました。入浴支援では多くの人達と出会い、被災者の方々からたくさんの「ありがとう」の言葉をもらいました。河川近くの捜索では、津波で流された車、被服等、様々な物が砂と泥まみれになっており「もし自分の町や家がこの状況と同じ事になっていたら」という事を何度も考えさせられました。

陸前高田市にある高田高校の瓦礫撤去及び行方不明者の捜索では、体育館の中が瓦礫等で天井まで埋もれている状況であり、長い時間を要しました。気の遠くなる単純な作業で、苛立ちと疲れが溜まり、しんどい日もありましたが後輩隊員とともに先頭に立ち、いつ行方不明者と対面することになるかも全くわからない中で、緊張感を持って作業する事ができました。

派遣終了に伴い、即応予備自衛官として活動する事はなくなっていますが、個人としてボランティア活動をしていきたいと考えています。また、普段の生活においても節電等に配慮していきたいと思います。

今回の災害派遣に、即応予備自衛官として参加し活動できた事に誇りを持ちたいと思っています。